

横手の伝統的なぼんでん行列

横手の雪祭りの最終日である 2 月 17 日、ぼんでんと呼ばれる巨大で精巧な装飾が施された木の棒を持った男たちの行列が横手市役所前に集結する。そこから南東に 3.5km 離れた旭岡山神社へと向かう。ぼんでんを持った男たちが神社の門をくぐると、先に境内に入っていた人たちに押し戻される。そのため、本殿に近づくほど押し合いが激しくなり、30kg もの重さのあるぼんでんは、ほとんどがボロボロになってしまう。本殿では、1 年の安全と繁栄を祈願して、グループごとにぼんでんに吊るされた布を奉納する。引き換えに、参加者は紙のお守り（おふだ）を近所や会社に持ち帰り、大切に保管する。

梵天コンクール

神社に奉納する前日に、ぼんでんを市役所に持ち込んで審査を行うコンクールが開催される。町内会や企業の参加が奨励されているが、ぼんでんの胴体や装飾は厳格なガイドラインに沿って作らなければならない。木の竿の高さ、竹かごの上の飾りの高さ、竿から垂らす布（さがり）の長さ、さらにはぼんでんの鉢巻の色や太さ、ねじりの方向などが細かく決められている。全体的な構造はガイドラインに沿って作られるが、装飾は各グループが自由に表現することができる。干支や正月飾りをモチーフにした伝統的なデザインもあれば、スポーツやキャラクターをモチーフにした現代的なデザインなど様々である。冬祭りでは、40 種類もの実物大のぼんでんが市役所に展示されると、歓声があがる。また、えびす俵（えびすたわら）や市の子供たちが作った小さなぼんでんも展示される。